

# クロスカルチャー教育の

## 方針と

カリキュラム

1/25  
MA4023

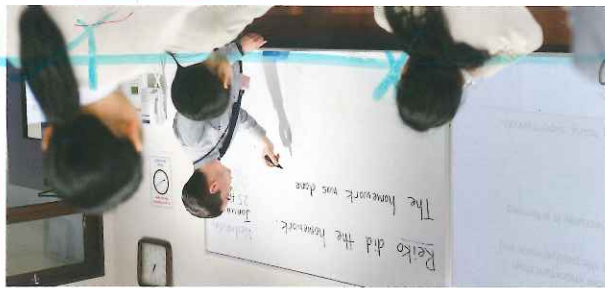


### 帰国生にとってのクロスカルチャー教育

最初から一般入試生と同じにクラスになると、帰国生は少数の「特別な人」という目で見られがちです。海外のことに関心を持って英語を学び続けてきた生徒と同じクラスになることで、帰国生は海外経験から得た豊かな感性を積極的に発揮できるため、安心してのびのびと学校生活を送ることが出来ます。また、日本語による教養を身につけるとともに、成人にふさわしい英語を習得。さらに、日本人特有の振る舞いやルールが存在していることに気がつき、日本の生活や仕事をするための様式を学ぶことができます。

### 国内生にとってのクロスカルチャー教育

クラスにはさまざまな国で生活してきた帰国生がいます。国内生は、自分とは違う発想・意見があることを発見し、それらの違いを受け入れ、相互理解を深めようとする努力によって、広い視野を持つことができるようになります。また、英語が飛び交う環境のため、自然と英語を使う機会が増え、英語でのコミュニケーションが積極的に行えるようになります。



### 教科のフオーアツク

クロスカルチャークラスの中学1年は、国・数・理・社について、学力特性に合わせた基本重視の授業を行います。放課後の理科・社会の予習講座も開設(希望制と指名制)。また、帰国生を対象とした国語の取り出し授業も行っています。

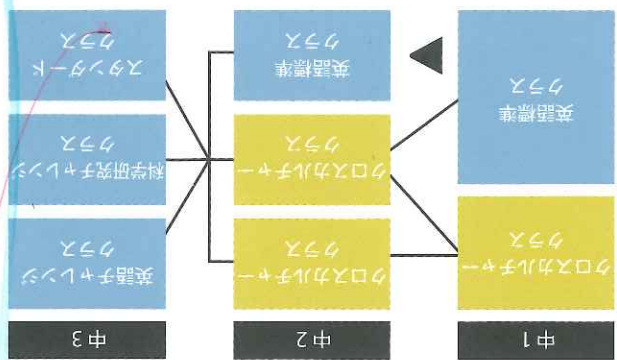
クロスカルチャー教育の目標は、国際社会で活躍する力を養成することです。多様性を尊重することを大切にしながら、クラスの一員としての役割を果たし、仲間と協力して課題を乗り越えることの大切さも学びます。クラス担任は、帰国生としての経験を持つ教員や、海外在住経験が長い教員が担当。クラス担任とは別に、日本語または英語に不安を持つ生徒をサポートする教諭も配置します。そのほか、帰国生の育児経験がある教員や専任スクールのカウンセラーが、生徒のメンタル面を優しくサポートします。

中学1年は、帰国生と国内の英語既習生で編成されたクロスカルチャークラスと、英語を中学から本格的に始める生徒、または英語が初級レベルの生徒で構成される英語標準クラスに分かれます。

中学2年では、クロスカルチャークラスを2クラス設置して、学力特性に細かく対応するとともに、クロスカルチャー教育を拡大。本校は、中学2年で中学校教科書レベルの学習を終え、中学3年からは高校入門レベルの内容へ入るため、クロスカルチャークラスは中学2年までの設置とします。

中学3年では、「英語チャレンジクラス」「科学研究チャレンジクラス」「スタテンタークラス」のいずれかのクラスに分かれます。「科学研究チャレンジクラス」では、多様な実験・研究活動に取り組み、高度な理系専門職を目指す生徒の資質を育成します。また、「英語チャレンジクラス」では、日本人とネイティブの教員が担任につき、クラス内のホームルーム活動で英語で話し、3月にイギリス語学研修を実施します。

高校は、希望進路によって文系・理系に分かれたクラス編成となります。海外大学や国内の国際語学系大学への進学を希望する生徒にも、希望する進路に特化した英語教育や受験対策を用意しています。



①-5  
1/25  
MA4023